

緊急保存版

震災防災教育  
アニメーション映画



忘あ僕  
れのは、  
日を

じまでやること、すじでやること



と、くる前に、  
ポイントチェックの  
習慣づくり!!

16ミリ 24分  
価格/230,000円（税別）  
ビデオ VHS 50,000円（税別）

資料提供/読売新聞大阪本社  
著作・制作/アニメーション画房 わ組・JHV

# 地震国、日本。喉もと過ぎても熱さ忘れずに！

地震はかならずやって来ます。

地震国日本では、常に備えが必要です。

このアニメは、阪神淡路大震災を教訓に、  
まず、地震の恐しさ、悲しさを身近にします。  
そして、そこから備えの必要性と大切さを  
導き出してゆきます。

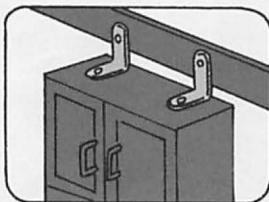
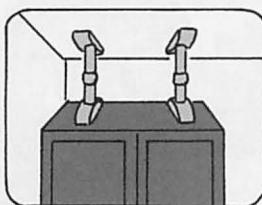
地震防災への关心と習慣が育つように  
わかりやすく、楽しく、解説します。



# 僕は、 あとの日を 忘れない。

緊急  
保存版

いまできること、  
すぐできること



1995年、1月17日、火曜日。

マモルは、いつもと変わらない平和な朝を迎えた。

眠い目をこすりながらマモルは、家族のいる居間にいくが、いつもと様子が違うことに気がつく。張り詰めた調子のテレビ中継。無言のままそれに見入る家族。

『何だろう？あのウエハースのようなものは…』

マモルはテレビに映し出された阪神高速道路を見て、啞然とする。二週間後、学校では阪神大震災についてのホームルームが開かれた。マモルたち生徒は、思い思いに自分たちの感じたことを発表し、様々なことが話し合われる。そして、担任のそなえ先生が読んでくれた、いくつかの新聞記事によって、生徒たちは、地震の本当の恐ろしさ、悲しさ、悔しさを知る。被害の規模を現わす数字や記号ではなく、地震によって個々の人に何が起ったのか？新聞記事は、痛いほどにその事実を伝えていた。学校の帰り道、マモル、民子、建太の三人は、深い悲しみに負けそうになりながらも、阪神大震災のことを忘れないことを誓いあう。

その後、マモルは、不思議な夢を見る。マモルは夢の中で瓦礫の街を家族を捜して走り回る。やっとの思いで父と母を見つけるが、祖母と妹のカナメが死んでしまっていた。……

夢から覚め、マモルはほっとしながらも、家族による地震防災会議を提案する。そして、なぜかいつもおとなしい祖母が奮発し、次の日曜日、地震会議が開かれる。

祖母の『地震は、かならず、やって来ます。』という、どきっとする言葉で始まった会議は、いくつかのポイントに絞られて進められる。①家具の転倒防止の大切さと具体的方法について、②備えておく非常用品の項目と、飲料水、食糧の備蓄について、③地震発生時の行動と注意点について。これらが身近な家庭を舞台にわかりやすく説明され、家族全員で確認していく。

その後、マモルたちのクラスでは、それぞれの家庭で話合った材料を持ち寄り、それを一冊の防災パンフレットのまとめる。そして、『いまできること、すぐできること』の第一歩として、パンフレットを街の人々に配って回るのだった。

マモル、民子、建太の三人は、この大震災の教訓から、それぞれに新たな目標が芽生え、未来に向かって歩み始める。

そんな三人の心を映すように、透き通った冬晴れの空が、どこまでも続いていた。

お申し込みお問い合わせ

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101